

技術と対話で未来をつくる

当社は、2023年10月25日に、東京証券取引所プライム市場に上場いたしました。これもひとえにステークホルダーの皆様のご支援とご高配の賜物と心より深く感謝申し上げます。

今後は、株式上場会社として、社会的責任をより一層強く自覚し、事業活動とESG(環境・社会課題の解決、ガバナンスの強化)の取り組みの両側面から、引き続き社会の信頼・期待にお応えできるよう、役員・従業員が一丸となって精励してまいります。

当社グループは、半導体製造プロセスにおける成膜を軸としてグローバルに事業を展開し、バッチ成膜装置およびトリートメント装置の市場で高いシェアを誇る半導体製造装置専門メーカーです。世界中の半導体メーカーが主なお客様であり、1949年の創業以来、70年以上にわたって「技術」と「対話」でお客様のニーズに応えてきました。

創業時は国際電気株式会社の、その後は株式会社日立国際電気の一事業として歩んできましたが、2018年に半導体製造装置専門の株式会社KOKUSAI ELECTRICとして独立し、再スタートいたしました。

当社グループを取り巻く半導体デバイス市場は、スマートフォンやパソコンなどのコンシューマー向けの需要拡大に加え、データセンターや5G、生成AI、環境負荷低減への投資(GX)などの産業向けの需要拡大により、今後も大きく成長することが予想されています。これに伴い、半導体デバイスはより複雑な三次元構造へのシフトが進んでおり、その構造はより深く、狭く、複雑になり、成膜が必要な表面積も拡大するため、より高品質・高性能で生産性の高い半導体製造装置が求められるようになり、半導体製造装置市場もまた大きく成長することが見込まれています。

加速する半導体デバイスの高密度化や高性能化に応える半導体製造装置を世の中に提供していくことは、半導体デ

バイスの進化を支える私たちの使命であり、それには高度なチャレンジが必要です。当社グループは現状に満足することなく、日々技術を磨くことで、お客様のニーズに対応するためのイノベーションを生み出し続けます。

当社グループでは、ステークホルダーの皆様との対話をより一層深め、技術で未来を支えていく決意を込め、新たな企業理念「KOKUSAI ELECTRIC Way」を制定しました。この企業理念の実現に向け、コーポレートスローガン「技術と対話で未来をつくる」のもと、引き続きグループ一丸となって創造と革新が生まれる未来を支えてまいります。

「技術」と「対話」で価値を創造し、「成膜」を通じて世の中のお役に立てるよう全力で取り組んでいきますので、引き続き皆様のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社KOKUSAI ELECTRIC
代表取締役 社長執行役員

金井 史幸



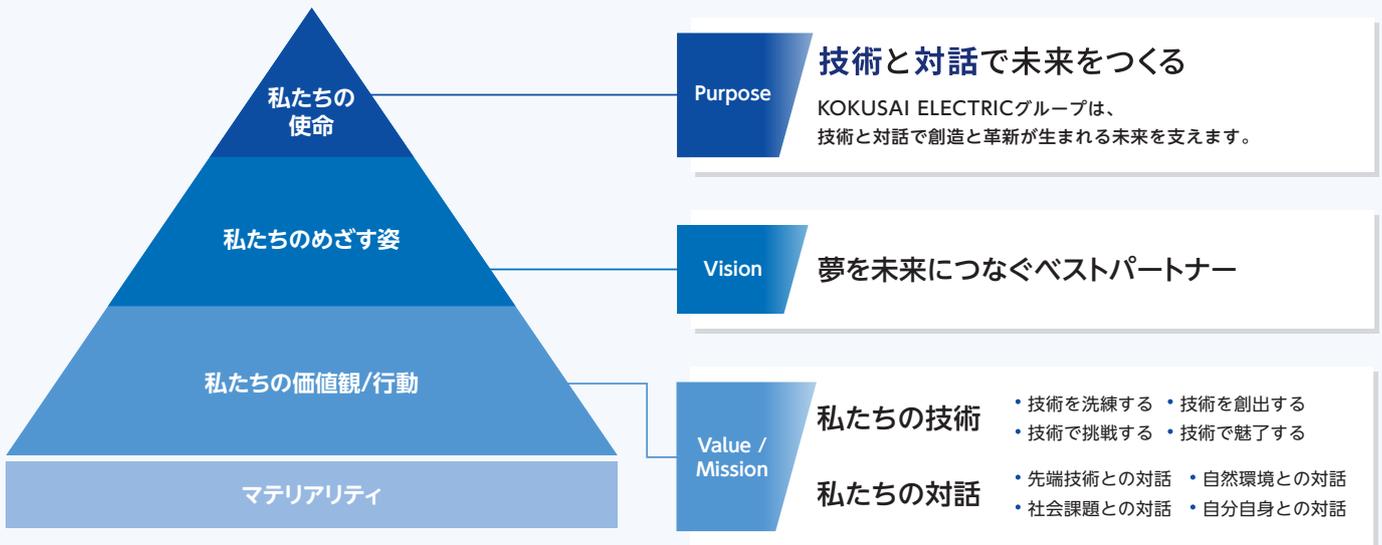
KOKUSAI ELECTRICグループとは

企業理念

当社グループでは、ステークホルダーの皆様との対話をより一層深め、技術で未来を支えていく決意を込め、新たな企業理念「KOKUSAI ELECTRIC Way」を制定しています。

私たちは、変化していく世の中の多様なニーズに、これまで積み重ねてきた技術と対話でお応えし、創造と革新が生まれる未来のベストパートナーをめざします。

KOKUSAI ELECTRICグループの理念体系



サステナビリティ経営

当社グループは、事業活動を通じて社会の信頼・期待に応えていくことが企業の社会的責任であると考えています。

私たちのサステナビリティ経営は、この社会的責任を強く自覚した上で、事業活動とESG(環境・社会課題の解決、ガバナンスの強化)の両側面から経済価値および環境・社会価値を追求することにより、SDGsの達成に寄与するとともに、持続可能な社会の実現と当社グループの持続的な発展の両立をめざすものです。



事業活動とESGの取り組み

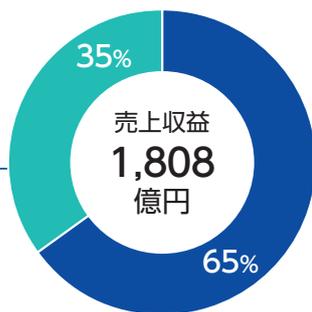
バッチ成膜装置、トリートメント（膜質改善）装置の世界トップクラスシェア^{※1}を誇る、「成膜」

事業ポートフォリオ

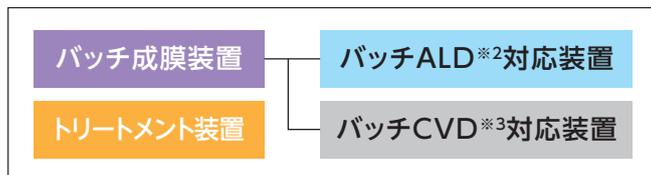
当社グループは、「成膜」に特化した企業であり、装置ビジネスでは世界トップクラスのマーケットシェアを有するバッチALD対応装置やトリートメント装置が主力製品です。

サービスビジネスは、部品販売や保守サービスのリカーリングなビジネスに加えて、装置の移設・改造、ウェーハサイズ200mmの装置販売を手掛けています。

2024年3月期
売上収益構成比



■ 装置ビジネス



■ サービスビジネス

※1: 公開情報・当社売上収益に基づき当社推定。

※2: Atomic Layer Depositionの略称。当社グループでは、複数のガスをサイクリックに供給する工程を伴い、原子層レベルで成膜する手法を「ALD」と呼ぶ。

※3: Chemical Vapor Depositionの略称。ガスを同時に供給し、気相で化学反応を起こして成膜する手法。当社グループでは、LP-CVD: Low Pressure CVDに集中。

強みとする2つの技術

バッチALD技術とは

半導体デバイスの複雑化・三次元化に伴って、高生産性と高難易度な成膜の必要性が顕在化しています。

数十枚以上のウェーハを一度に成膜するバッチ成膜技術と、高品質な成膜を実現するALD技術を組み合わせたバッチALD技術は、高生産性と高難易度な成膜を両立する論理的なソリューションです。既に展開が進んでいるNANDだけでなく、今後デバイス複雑化・三次元化が進展するDRAMやLogic/Foundryでの需要拡大が期待されます。

トリートメント（膜質改善）技術とは

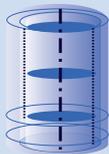
トリートメント装置は、膜中の不純物を除去し、粒子を安定させて膜質を改善させる装置です。成膜の低温化が進む中で、プラズマを使った膜質の改善に対するニーズが高まっています。当社グループのトリートメント装置は、独自のプラズマ方式が生み出す潤沢なラジカルにより、等方性とステップカバレッジに優れた膜質改善を、高い生産性で実現するソリューションです。

既にNANDとDRAMの領域で展開が進んでおり、Logic/Foundryへの展開が期待されます。

高い生産性と難易度の高い高品質成膜の両立が可能なバッチALDの需要が拡大

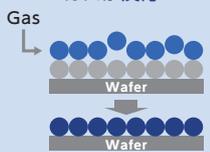
バッチ成膜技術
高生産性

数十枚以上のウェーハを一度に成膜



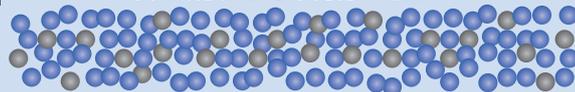
ALD技術
高品質

ウェーハ表面でガスが反応

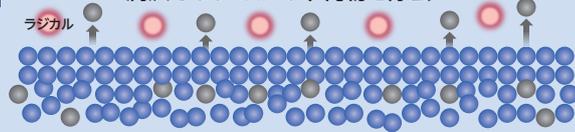


※イメージ

1 低温成膜による不純物の発生



2 潤沢なラジカルで不純物を除去



3 トリートメント（膜質改善）後



プロセスに特化した装置専門メーカー

主要事業① 装置ビジネス

バッチ成膜装置やトリートメント装置など、半導体製造装置の製造・販売を手掛けています。世界中の半導体メーカーから高い評価をいただき、世界トップクラスのシェアを有しています。



ミニバッチ成膜装置
[TSURUGI-C² 劔[®]]



枚葉トリートメント装置
[MARORA[®]]

※TSURUGI-C²、劔のロゴは株式会社KOKUSAI ELECTRICの登録商標です。
※MARORAは株式会社KOKUSAI ELECTRICの登録商標です。

主要事業② サービスビジネス

当社グループが製造・販売する半導体製造装置のアフターサービス(部品販売、保守サービス、有償修理、装置の移設・改造、ウェーハサイズ200mm以下のレガシー装置販売など)を手掛けています。



ESGの取り組み

マテリアリティ

社長執行役員を委員長とするサステナビリティ委員会のもと、①創造と革新による社会への貢献、②持続可能な社会の創造・地球環境の保全、③イノベーション創出の源泉となる人財(人材)マネジメント、④サステナビリティ経営の実現に向けたガバナンス体制の強化、⑤人権の尊重・配慮のマテリアリティに沿って課題解決に向けた活動を推進しています。

重点テーマ

- 環境負荷の低減
- 技術・製品を通じた環境への貢献
- 持続可能な調達の推進



重点テーマ

- 多様な人財の尊重
- 自ら学び、考え、実行する人財の開発
- 健康と安全の維持・向上



重点テーマ

- 新技術・新製品の創出
- お客様満足度の向上
- 経済パフォーマンスの向上



重点テーマ

- 人権の尊重



重点テーマ

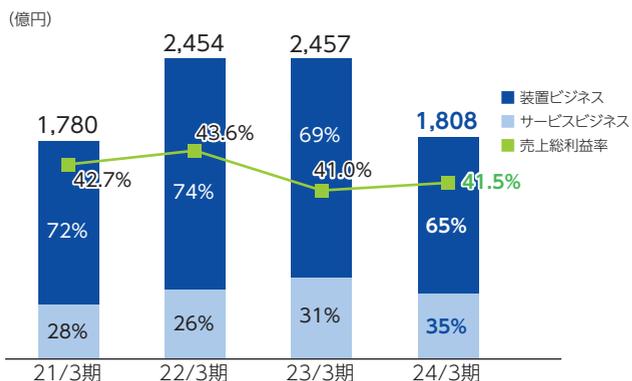
- ガバナンスの強化
- 重大ビジネスリスク・マネジメントの徹底
- 経営の透明性確保



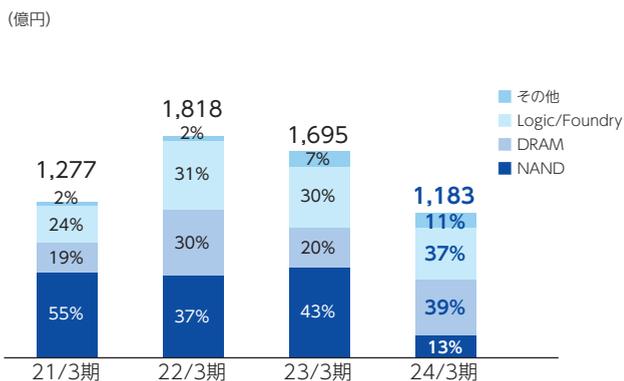
※マテリアリティ、重点テーマについては、2024年3月に開催したサステナビリティ委員会で見直した結果、変更がないことを確認しています。

財務ハイライト

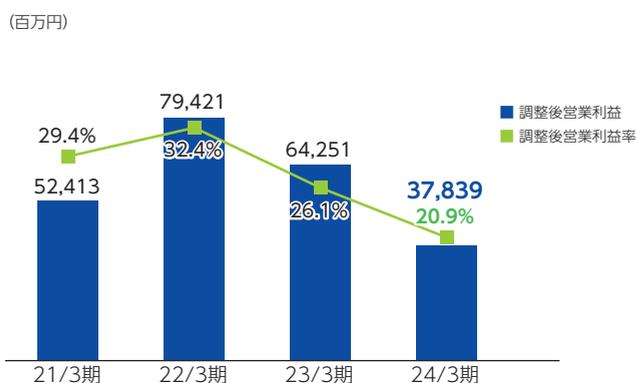
売上収益(ビジネス別) / 売上総利益率



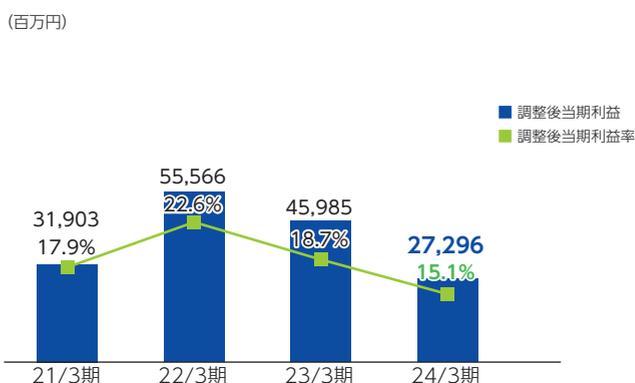
売上収益(300mm装置のみ) アプリケーション別



調整後営業利益 / 調整後営業利益率



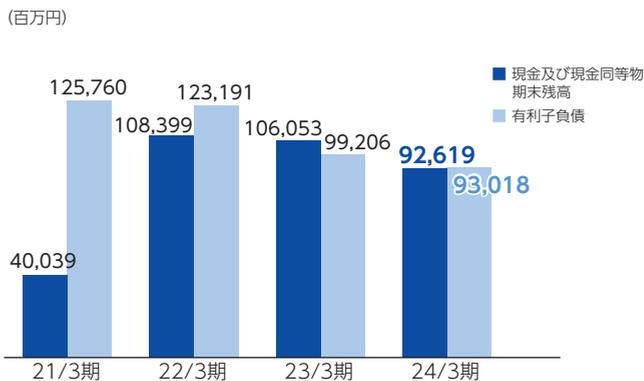
調整後当期利益 / 調整後当期利益率



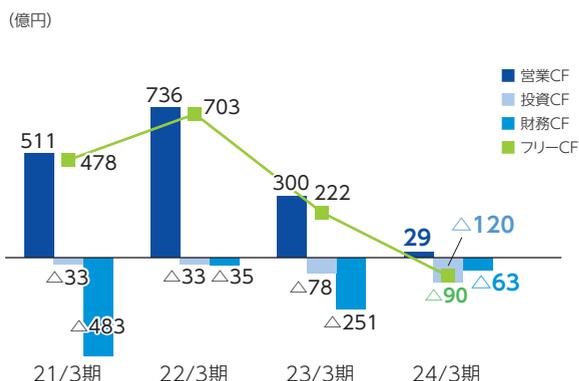
資産合計 / 資本合計 / 自己資本比率



現金及び現金同等物 / 有利子負債



キャッシュ・フロー



研究開発費



会社概要・株式情報

一 会社概要 (2024年3月31日現在)

社名 株式会社 KOKUSAI ELECTRIC
設立 2017年2月2日
資本金 112億62百万円
従業員数 連結:2,472名/単体:1,125名
上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場
証券コード 6525

一 沿革

1949 国際電気(株)創業
2000 国際電気(株)/日立電子(株)/八木アンテナ(株)が合併、(株)日立国際電気を設立
2017 KKRが株主に参画
2018 会社分割を実施し、半導体製造装置専門業に(株)KOKUSAI ELECTRICに社名変更
2023 東証プライム市場に上場

一 取締役 (2024年3月31日現在)

代表取締役 金井 史幸
取締役 神谷 勇二
取締役 小川 雲龍
取締役(非常勤) 中村 正樹
社外取締役 酒井 紀子
社外取締役 鶴田 雅明
社外取締役 平野 博文
取締役(常勤監査等委員) 内野 敏幸
社外取締役(監査等委員) 熊谷 均
社外取締役(監査等委員) 中田 裕人

一 執行役員 (2024年4月1日現在)

社長執行役員 金井 史幸
専務執行役員 柳川 秀宏
専務執行役員 塚田 和徳
常務執行役員 山田 正行
常務執行役員 河上 好隆
常務執行役員 金山 健司
常務執行役員 山峯 直利
執行役員 宮本 正巳
執行役員 小竹 繁
執行役員 川上 晴彦

一 株式の状況 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数 900,000,000株
発行済株式の総数 232,928,202株
株主数 36,862名

一 大株主 (2024年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
KKR HKE Investment L.P.	101,025,800	43.37
BNYM AS AGT/CLTS NON TREATY JASDEC	34,759,830	14.92
KSP Kokusai Investments, LLC	15,619,500	6.70
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	14,083,454	6.04
Qatar Holding LLC	11,520,000	4.94
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,803,300	4.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,051,000	0.88
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD	1,952,140	0.83
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDUC UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	1,506,900	0.64
CEPLUX THREADNEEDLE (LUX)	1,097,900	0.47

株主メモ

事業年度 4月1日~翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主確定基準日 3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数 100株
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話: 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場市場 東京証券取引所 プライム市場

公告方法 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

公告掲載URL https://www.kokusai-electric.com/public_notice/

ウェブサイトのご案内



株式会社 KOKUSAI ELECTRIC

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3丁目4番地 oak神田鍛冶町ビル5階

TEL: 03-5297-8530 (代表)

<https://www.kokusai-electric.com>

